

2017年（平成29年） 9月1日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

8/10~8/23のNYMEX・WTIは、46.78~48.82ドルの範囲で推移した。

8月24日は、ハリケーン「ハービー」の接近に伴いメキシコ湾岸製油所が操業を停止するにもかかわらず、対ユーロでのドル高進行による原油先物の割高感から売られ、3日振りに反落した。10月限の終値は前日比0.98ドル安の47.43ドルだった。

週末25日は、大型ハリケーンに対する警戒感の高まり、ドル安・ユーロ高に伴う割安感、ペーカーヒューズ社による米国内石油掘削リグ稼働数759基（前週比4基減）の2週連続減少との発表から反発した。この日、イエレンFRB議長が講演を行ったが、金融政策への言及はなく、ドルが売られた。10月限の終値は前日比0.44ドル高の47.87ドルだった。

週明け28日は、ハリケーン被害が拡大し、供給懸念から、ガソリン、暖房油価格が上昇する中、原油は大幅反落した。ハリケーンによる製油所閉鎖で、原油在庫が増大するとの懸念がある模様。10月限の終値は前週末比1.30ドル安の46.57ドルだった。

29日は、原油在庫の拡大懸念から続落した。製品価格の上昇と対ユーロでのドル安に伴う原油先物の割安感が下値を支えた。10月限の終値は前日比0.13ドル安の46.44ドルだった。

30日は、熱帯低気圧となったハリケーンによる製油所閉鎖が相次ぐ中、製品価格の急騰にもかかわらず、原油先物市場では目先の原油在庫拡大懸念が拡大し3営業日続落した。EIA週報の予想を上回る原油在庫の取り崩し（9週間連続）による買いも限られた。10月限の終値は前日比0.48ドル

安の45.96ドルだった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（10月渡し）は、前々週と前週48.70~51.50ドルの範囲で推移した。8月24日50.60ドル、25日50.50ドル、28日50.70ドル、29日50.20ドル、30日は50.10ドルで推移した。

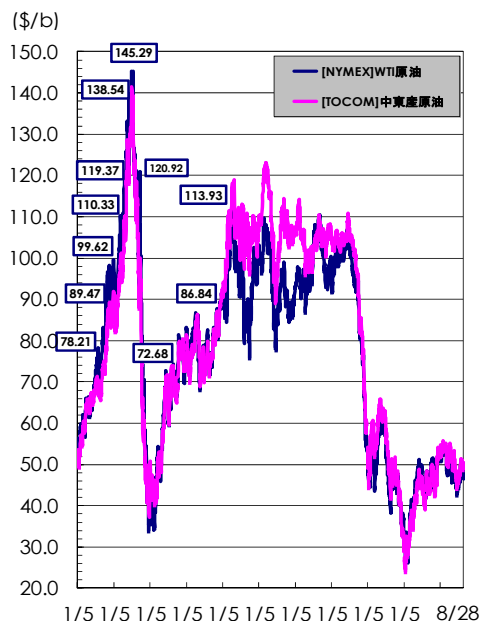
為替は、前々週と前週109.15~110.71円の範囲で推移した。8月24日109.17円、25日は109.80円、28日109.11円、29日108.81円、30日109.89円で推移した。

財務省が30日発表した貿易統計速報による8月上旬の原油輸入平均CIF価格は、34,002円/klとなり、前旬を31円下回った。ドル建てでは48.43ドルで前旬比0.66ドル高。為替レートは1ドル/111.61円。

主要元売会社の9月第1週に適用する卸価格は、据え置きから0.5円の値上げに分かれた。原油価格は値上がりし、為替レートの円高がわずかに相殺したが、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、8月28日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値上がりの131.4円、軽油も0.1円値上がりの110.3円、灯油は横ばいの76.1円だった。ガソリンは2週振りに値上がり、軽油は3週振りの値上がり、灯油は5週連続の横ばいだった。この週（8月第4週）の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は、0.5~1.0円の引き下げに分かれた。

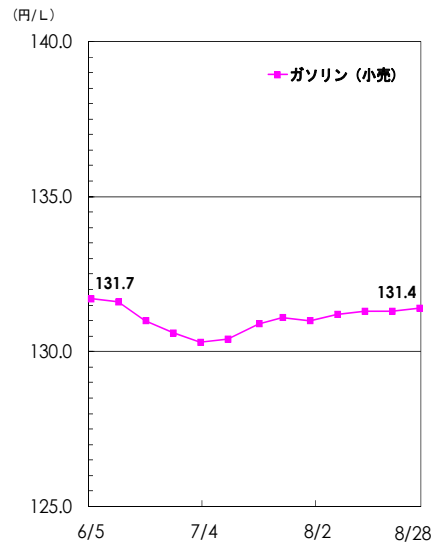
原油		今週	前週比	前年比	
需給	原油処理量 (千kl)	8/20 ~ 8/26	3,736	▼ -85	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	95.4	▼ -2.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	8/26	13,913	▼ -246	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/ bbl)	8/28	50.47	▼ -0.05	▲ 3.7
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	8/28	46.57	▼ -0.80	▼ -0.4
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	8月上旬	48.43	▲ 0.66	▲ 3.03
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	34,002	▼ -31	▲ 4,487
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.61	▲ 1.67	▼ -8.26
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/28	110.11	▲ 0.26	▼ -7.26



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/20 ~ 8/26	1,044 ▼ -78	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	979 ▼ -9	▼ -	
	輸出	"	72 ▲ 5	▲ -	
	在庫	8/26	1,703 ▼ -8	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/22 ~ 8/28	49.0 ▼ -0.2	▲ 5.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/22 ~ 8/28	49.4 ➡ 0.0	▲ 8.4
		(TOCOM/中部)	8/28	49.0 ▼ -0.1	▲ 8.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/28	131.4 ▲ 0.1	▲ 9.2	

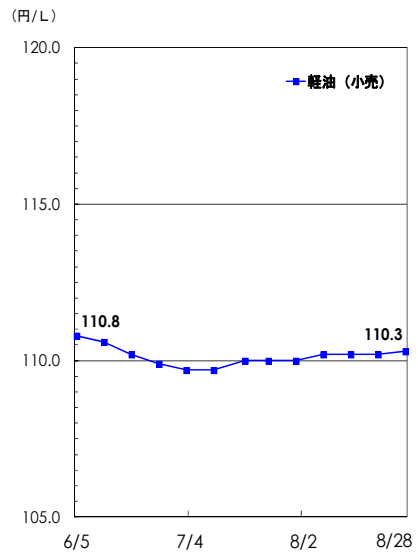
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

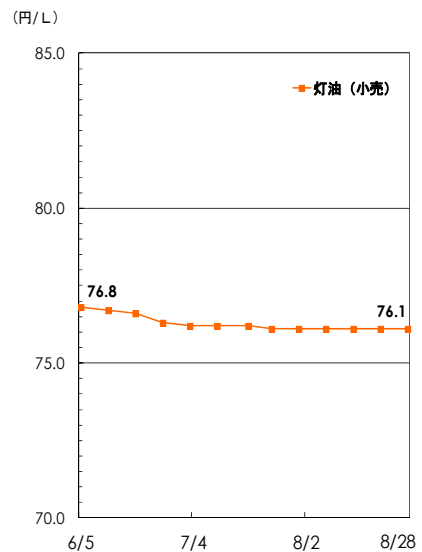
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/20 ~ 8/26	899 ▲ 22	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	599 ▲ 197	▼ -	
	輸出	"	299 ▲ 28	▲ -	
	在庫	8/26	1,596 ▲ 2	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/22 ~ 8/28	47.7 ▼ -0.3	▲ 9.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/22 ~ 8/28	48.0 ➡ 0.0	▲ 8.8
		(TOCOM/中部)	8/28	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/28	110.3 ▲ 0.1	▲ 8.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/20 ~ 8/26	206 ▼ -88	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	149 ▲ 78	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	8/26	2,282 ▲ 56	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/22 ~ 8/28	47.4 ▲ 0.1	▲ 10.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/22 ~ 8/28	48.1 ▲ 0.6	▲ 7.3
		(TOCOM/中部)	8/28	47.9 ▲ 0.1	▲ 8.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/28	76.1 ➡ 0.0	▲ 12.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

8月30日のNYMEX市場WTI原油は、熱帯低気圧となったハリケーン「ハービー」による洪水被害が拡大する中、製油所閉鎖による目先の原油在庫増大懸念から、3営業日続落した。

ロイターによれば、米国最大のポートアーサー(サウジアラムコ・能力日量60.3万バレル)、第2位のベイトウン(エクソンモービル、同56.9万バレル)を含む、米国の精製能力の24%に相当する少なくとも日量440万バレルが停止状態にある。このため、ガソリン価格は2015年7月以来の高値に急騰した。また、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、米国

原油在庫は前週比540万バレル減と市場予想(同150万バレル減)を大きく上回り、9週連続の減少となったものの、一時的な買いに止まった。10月限の終値は、前日比0.48ドル安の45.96ドル、11月限の終値は前日比0.49ドル高の46.51ドルだった。

EIAによると、8月28日時点のガソリンの小売価格は前週比3.9セント値上がりの1ガロン2.399ドル(69.7円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.9セント値上がりの2.605ドル(75.7円/ℓ)。ガソリンは2週振りの値上がり、ディーゼルは2週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、8月20日～8月26日に休止したトッパー能力は0万バレル/日で、前週に対して横ばいであった(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は373.6万klと、前週に比べ8.5万kl減少。前年に対しては1.2万klの減少。トッパー稼働率は95.4%と前週に対して2.2ポイントの減少、前年に対しては7.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/6.9%減、ジェット/2.5%増、灯油/30.0%減、軽油/2.5%増、A重油/1.7%減、C重油/22.1%減。今週のC重油の輸入は1.1万kl(前週比0.8万kl増)。軽油の輸出は29.9万kl(前週比2.8万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリンのみが減少し、その他の油種で増加した。前年比では、ジェット、灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は97.9万kl(対前週0.9%減)と3週連続で前週比で減少、10週連続で前年比で減少となり、2週連続で100万klを下回った。

ジェット18.4万kl(対前週15.5%増)、灯油14.9万kl(対前週110.9%増)、軽油59.9万kl(対前週48.7%増)、A重油21.0万kl(対前週124.7%増)、C重油18.6

万kl(対前週0.3%増)。

(単位:千KL)

	今週 (8/20 ~ 8/26)	前週 (8/13 ~ 8/19)	前週比
ガソリン	979	988	▼ -9 (-1%)
ジェット燃料	184	159	▲ 25 (16%)
灯油	149	71	▲ 78 (110%)
軽油	599	402	▲ 197 (49%)
A重油	210	94	▲ 116 (123%)
C重油	186	185	▲ 1 (1%)
合計	2,307	1,899	▲ 408 (21%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月26日時点の在庫は、灯油、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、A重油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは170.3万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては7.7万kl多い。

灯油は228.2万kl、前週差5.6万kl増。前年に対しては25.3万kl少ない。

軽油は159.6万kl、前週差0.2万kl増。前年に対しては16.3万kl少ない。

A重油は80.5万kl、前週差1.5万kl減。前年に対しては3.6万kl多い。

C重油は212.3万kl、前週差9.2万kl減。前年に対しては5.7万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (8/26)	前週 (8/19)	前週比
ガソリン	1,703	1,711	▼ -8 (-0%)
ジェット燃料	937	1,050	▼ -113 (-11%)
灯油	2,282	2,226	▲ 56 (3%)
軽油	1,596	1,594	▲ 2 (0%)
A重油	805	820	▼ -15 (-2%)
C重油	2,123	2,215	▼ -92 (-4%)
合計	9,446	9,616	▼ -170 (-1.8%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月22日から28日までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをわずかに相殺したが、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン102円台でわずかに値上がり、軽油47円台でやや軟化、灯油47円台で堅調に推移した。

海上スポット価格は、ガソリン104～105円台で軟化、軽油48円台で堅調、灯油46～47円台で堅調に推移した。

先物価格は、ガソリン102～103円台で連日動き、軽油48円台で横ばい、灯油47～48円台で堅調に推移した。元売の

卸価格は、据え置きと0.5円の値上げに分かれた。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月22日から28日の原油コストは値上がりし、製品スポット市況は、陸上・先物の灯油が値上がりし、先物のガソリン・軽油、海上の灯油が横ばいで、それ以外は値下りした。

9月第1週(8月31日～9月6日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(8月22日～28日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.2円の値下がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は0.3円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.4円の値下がり、灯油は横ばい、軽油は0.7円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが横ばい、灯油は0.6円の値上がり、軽油が横ばいだった。原油価格は値上がりし、為替の円高がこれをやや相殺したが、原油コストは値上がりだった。

9月第1週の大手元売の卸価格は、据え置きから0.5円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (8/22～8/28)	前週 (8/15～8/21)	前週比
	レギュラー	49.0	49.2
灯油	47.4	47.3	▲ 0.1
軽油	47.7	48.0	▼ -0.3

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (8/22～8/28)	前週 (8/15～8/21)	前週比
	レギュラー	49.4	49.4
灯油	48.1	47.5	▲ 0.6
軽油	48.0	48.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/22～8/28実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.2	➡ 0.0	▼ -0.1
灯油	▲ 0.1	▲ 0.6	▲ 0.4
軽油	▼ -0.3	➡ 0.0	▼ -0.1
A重油	▼ -0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

8月28日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値上がりの131.4円、軽油も0.1円値上がりの110.3円、灯油は横ばいの76.1円だった。ガソリンは2週振りの値上がり、軽油は3週振りの値上がり、灯油は5週連続の横ばいだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは16道府県、横ばいは9県、値下がりは22都県、全国最安値は埼玉県の127.3円(同0.1円安)、次が徳島県の127.7円(同横ばい)、最高値は沖縄県の141.8円(同1.5円高)だった。最も値上がりしたのは、2.0円高の宮城県(130.2円)、最も値下がりした県は、0.8円安の神奈川県(128.5円)、横ばいは、長崎県・高知県・山形県・香川県・福島県・富山県・兵庫県・岩手県・徳島県だった。

原油コストは値下がりしたが、2週振りでガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートの円高がややこれを相殺したが、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、据え置きから0.5円の値上げとなった。次週(9月4日)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (8/28)	前週 (8/21)	前週比	直近高値	
	レギュラー	131.4	131.3	▲ 0.1	08/8/4
灯油	76.1	76.1	➡ 0.0	08/8/11	132.1
軽油	110.3	110.2	▲ 0.1	08/8/4	167.4

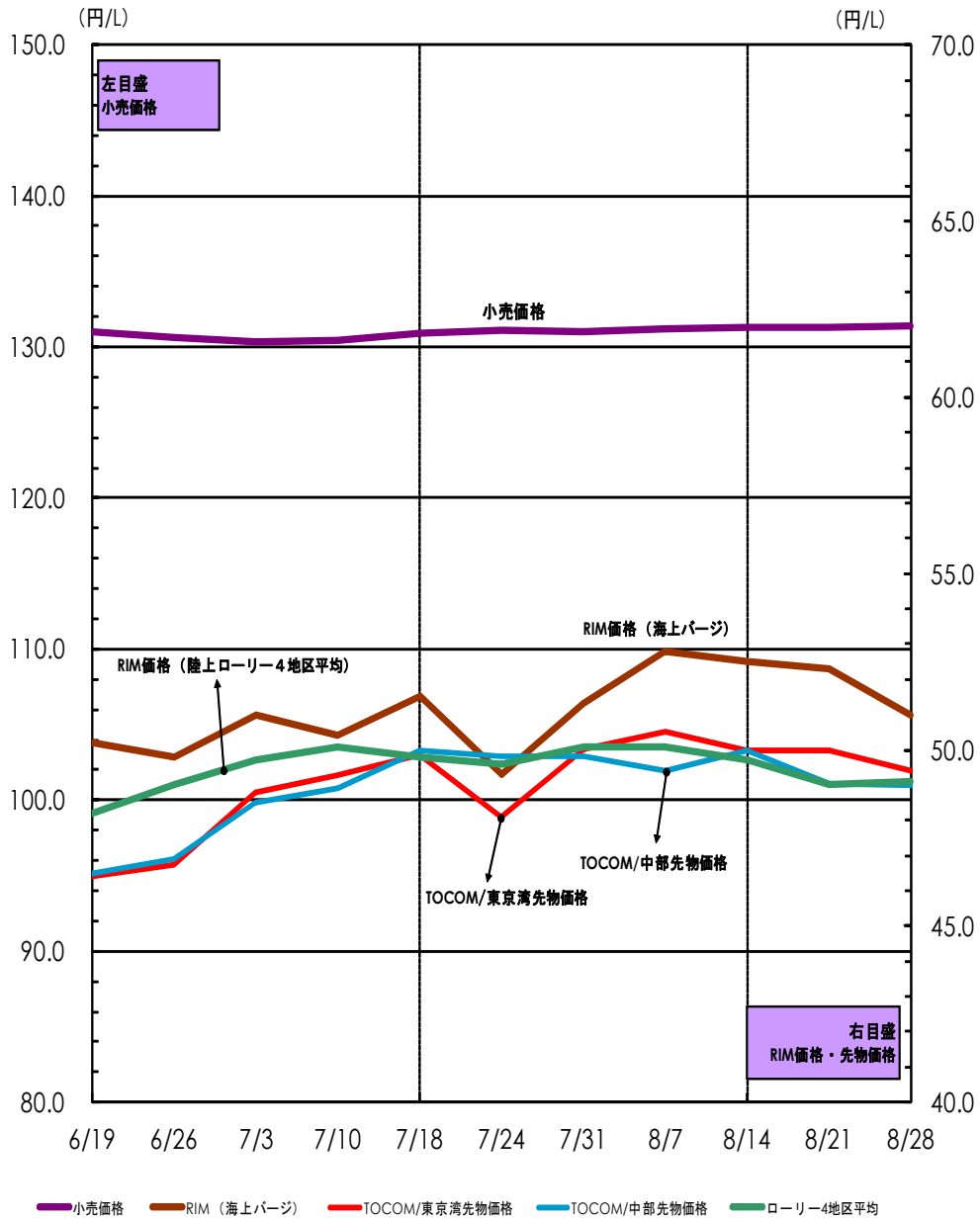
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2017/6/19 ~ 2017/8/28)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2017第21号)の公表は、9/8(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年3月末現在)は、7月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。